

野生鳥獣保護管理技術者育成研修(カワウ)講義資料

この講義資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Webでの掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

2011年度 野生鳥獣保護管理技術者育成研修会(カワウ)

対 象: 都道府県の鳥獣行政担当者、水産行政担当者、内水面漁業関係者、その他
カワウの保護管理、調査、被害防除に関わる者

開 催 日: 2011年11月28日(月)～11月30日(水) 2泊3日

場 所: 愛知県東大手庁舎 407 会議室

講師と科目: 加藤ななえ(カワウの生態)

: 高木憲太郎(特定鳥獣保護管理計画とカワウの広域管理について)

: 亀田佳代子・石田朗(カワウ被害軽減のためのコロニー・ねぐら管理とは)

: 山本麻希(新潟県におけるねぐら除去事例)

: 坪井潤一(ねぐら除去手法について)

: 加藤ななえ(ねぐらやコロニーにおけるカワウの個体数調査方法)

: 加藤ななえ(東京都浜離宮庭園におけるねぐら除去事例)

: 藍憲一郎(夷隅川におけるねぐら除去事例)

: 坪井潤一(ねぐら管理の進め方)

野 外 実 習: 弥富野鳥園(愛知県) ねぐら除去方法の実習とねぐら入りカウント

現地説明者:(財)愛知公園協会

: 山梨県水産技術センター

: NPO 法人バードリサーチ

カワウ被害軽減のためのコロニー・ねぐら管理とは

亀田佳代子（滋賀県立琵琶湖博物館）・石田朗（愛知県新城設楽農林水産事務所）

1. カワウの問題と対応

1) 森林等の被害と漁業被害がある

2) 通常のカワウ問題への対応

- ・個々の被害地でそれぞれに対応→対応の周辺地域にどのような影響を与えているかは不明なことが多い

3) 効果的なカワウのねぐら・コロニーへの対応

- ・県や地方の被害も同時に軽減できるよう考慮した対応ができるとよい

2. 森林被害と漁業被害をにらんだ対応・調整とは

1) カワウの生活

- ・ねぐら・コロニーと餌場を往復
- ・日常行動圏はほとんど 15km 以内

2) 漁業被害を念頭に置いたねぐら・コロニー対策の考え方

- ・アユの放流地点など防除したい場所から 15km 圏外へねぐら・コロニーを移動させる

3) 追い出しの注意点

- ・あらかじめ、追い出された個体が移動する場所を想定しておく。
- ・防除したい場所から 15km 圏内に新たなねぐら・コロニーが形成した場合、そこからも追い出す。
- ・15km 圏外でも問題となる場所にねぐら・コロニーができた場合、対処方法を想定しておく。

3. コロニー・ねぐらにおけるステージ別の対策

1) ねぐら・営巣開始期：増加前に追い出し・繁殖抑制がしやすい。

2) 増加期：対策は困難であるが、個体数を早く安定させる状況を作る必要がある。

3) 安定・衰退期：被害が大きければ、個体数・営巣数を抑制。被害がなければ、放置。

4. 県や地方におけるねぐら・コロニー管理

1) ステップ1：情報収集

- ・ねぐら・コロニーの位置、成立年代、個体数・営巣数やその季節変化など
- ・各漁協の管轄域、養魚場の位置、放流の時期や魚種など

2) ステップ2：ねぐら・コロニーの分布管理

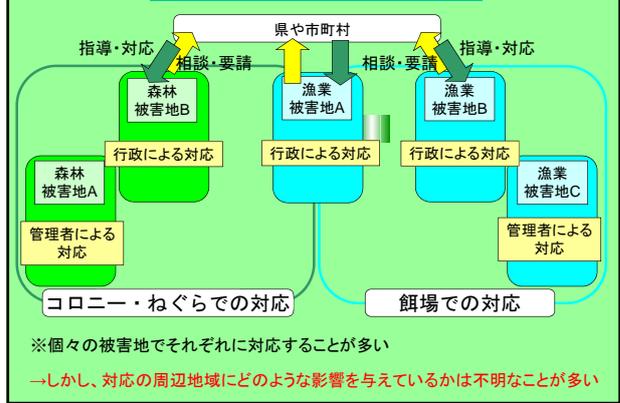
- ・収集した情報をもとに、被害地に影響のありそうなねぐら・コロニーをリストアップ
- ・被害地に直接影響のありそうなねぐら・コロニーでの対応（追い払い、個体数や営巣数の抑制など周辺への影響も考慮して）
- ・県や地域内でカワウ許容エリア、許容個体数（分布拡大、個体数増加をどの段階で押しとどめるのが効果的か）と各ねぐら・コロニーのステージを考慮した対応

カワウ被害軽減のための コロニー・ねぐら管理とは

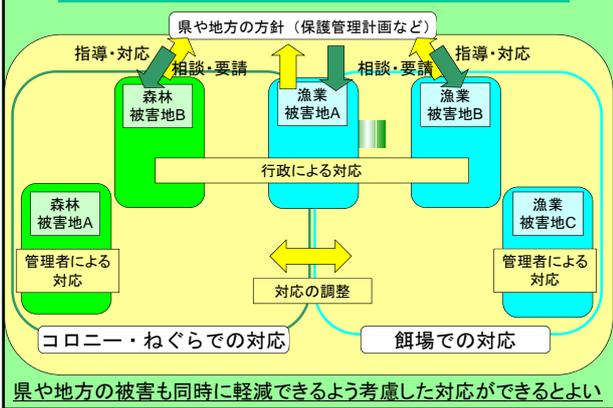


○亀田佳代子(滋賀県立琵琶湖博物館)
石田朗(愛知県新城設楽農林水産事務所)

通常のカワウ問題への対応



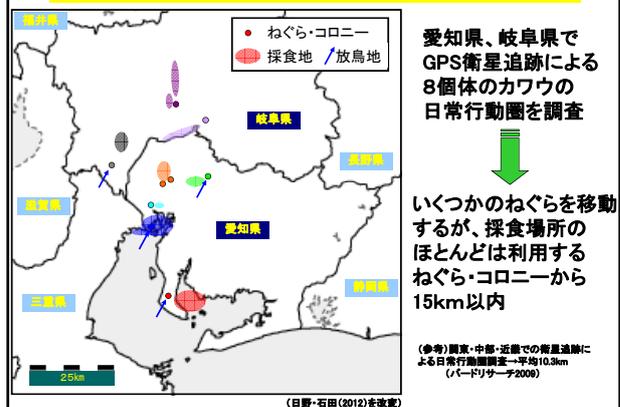
効果的なカワウのねぐら・コロニーへの対応



では、森林被害と漁業被害の
双方をにらんだ対応・調整とは、
どのようなことをすればよい
か？

その前に、
ねぐら・コロニー管理の基礎に
なる知見について

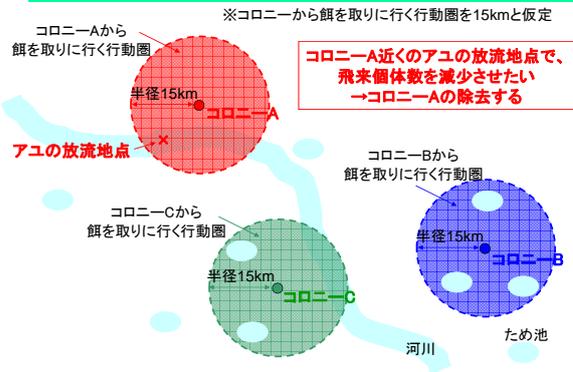
カワウの生活→ねぐら・コロニーと餌場を往復



(日野・石田(2012)を改変)

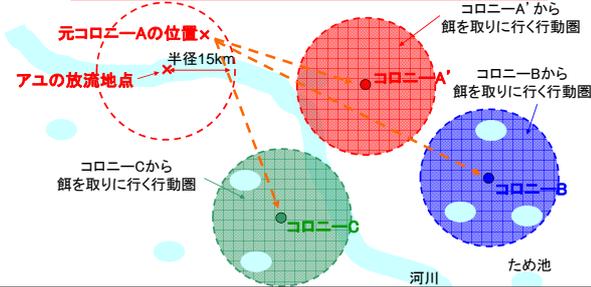
というわけで、カワウの日常行動圏を考慮して、森林被害と漁業被害の双方をにらんだ対応を考えてみると・・・

漁業被害を念頭に置いた ねぐら・コロニー対策の基本的な考え方(1)



漁業被害を念頭に置いた ねぐら・コロニー対策の基本的な考え方(2)

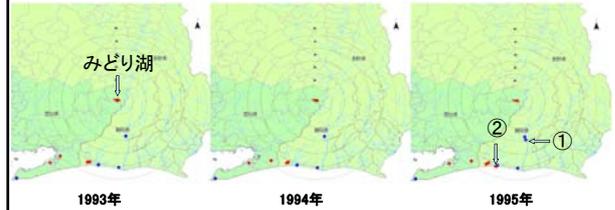
コロニーAを除去する→アユの放流地点から15kmの範囲外へ個体群を移動させる
→①コロニーを移動させる
②他のコロニーに吸収させる



追い出しによるコロニー・ねぐらの分布変化の事例

愛知県北設楽郡豊根村みどり湖(天竜川水系のダム湖)

1994年4月に50-60羽追い出し実施



1995年に①30km離れたところにねぐらが1ヶ所、
②50km離れたところにコロニーが1ヶ所、新しくできた
(日野ら(2010)より)

漁業被害を念頭に置いた ねぐら・コロニー対策の基本的な考え方(3)

●ねぐら・コロニー除去の注意点:

- ①あらかじめ、追い出された個体が移動する場所(近隣にある既存のねぐら・コロニーや水辺の林などで、問題が起こらない場所)を想定しておく。
- ②追い出された個体が、漁業被害から守りたい場所から15km以内に新たなねぐら・コロニーを形成した場合は速やかにその場所からも追い出す。
- ③万が一、追い出された個体が問題となる場所にねぐら・コロニーを形成した場合の対処方法を想定しておく。

対策後の状況予測と効果測定に伴わない無計画・無責任な追い出しは状況が改善しないばかりか、悪化することもあるので絶対に行わない

工場敷地内
三河湾
防潮マツ林
池
田圃コロニー
元からのコロニー(a)

防潮林の衰退を防ぐ等の目的で(b)(c)から追い出し

対策前後での周辺ねぐらの個体数の変化

1124→1528
558→23
0→0
0→0

(a)元からの営巣地: 377→400
(b)新しい営巣地: 280→0
(c)新しい営巣地: 2→0
合計羽数: 629→400 太平洋

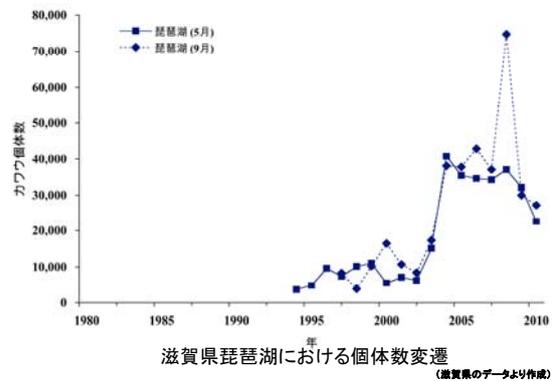
- ①追い出された個体一元からのコロニーへの収容を想定。
- ②新たなコロニー・ねぐらの形成と問題の発生をモニタリング。

元からのコロニー(a)に人工巢台を設置し、受け入れ先を確保したうえで、追い払いを実施。

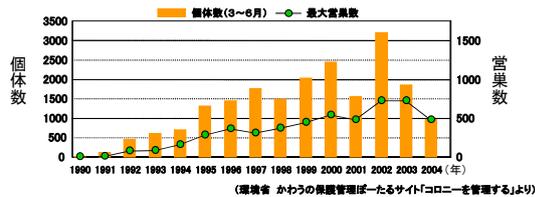
愛知県田原市におけるコロニーの追い払いの事例
(石田(2002)より)

それでは、問題のあるすべてのねぐら・コロニーを追い出せばよいか？

●大幅に増えた後では対応が大変＝追いつくのが難しい
→追いつく場合は、増え出す前に追いつくことが重要

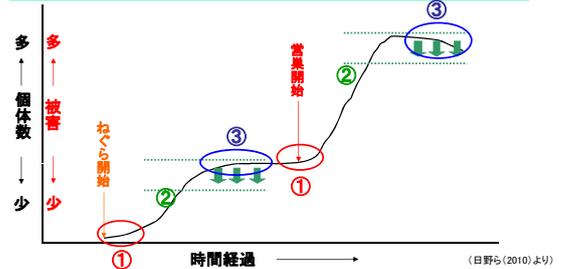


攪乱のないコロニーにおける個体数・営巣数の推移の一例



人為的な攪乱がなくても、長期的にみると
個体数は自然に頭打ちになる。
→ねぐら・営巣の場所や周辺で採れる餌など
資源が限られるためと考えられる。

これらのことから、「コロニー・ねぐらでは、ステージ別に効果的な対策が異なる」と考えられる



①まだ馴染んでいない定着期→増加の前に追いつき・繁殖抑制がしやすい。
②個体数や営巣数が増加中→対策が困難であるが、個体数を早く安定化させる状況を作る必要がある。
③安定・衰退期→被害が大きければ、個体数を抑制。被害がなければ、放置。

これを県や地方で考えるとどうなるか？

県や地方における
ねぐら・コロニー管理の考え方(ステップ1)

- 情報収集
 - ①カワウのねぐら・コロニーの情報
 - ・位置
 - ・成立年代
 - ・個体数、営巣数とその季節変化 など
 - 調査・情報収集体制(行政、野鳥の会や漁協、ねぐら管理者との連携)の構築、ねぐら・コロニーシートの活用
 - ②被害地の情報
 - ・各漁協の管轄域や養魚場の位置
 - ・放流の時期や魚種 など
 - 位置情報等のマップ化

県や地方における ねぐら・コロニー管理の考え方(ステップ2)

●ねぐら・コロニーの分布管理

- ①漁業被害地への影響を評価
 - ・収集した情報をもとに、被害地に影響のありそうなねぐら・コロニーをリストアップ
- ②効果的な対応の検討
 - ・被害地に直接影響のありそうなねぐら・コロニーでの対応(追い払い、個体数や営巣数の抑制など周辺への影響も考慮して)
 - ・県や地域内でカワウ許容エリア、許容個体数(分布拡大、個体数増加をどの段階で押しとどめるのが効果的か)と各ねぐら・コロニーのステージを考慮した対応

県におけるねぐら・コロニー管理の方向性の例

- ①山梨県・・・「県内進出初期段階で個体数をこれ以上増やさない」
 - ・コロニーを1箇所に限定し(ステージ1でのコロニー形成阻止)
 - ・繁殖抑制(ステージ2での個体数増加抑制)
 - ②新潟県・・・「県内の個体数をこれ以上増やさない」
 - ・現状のコロニー数を増やさない(ステージ1でのコロニー形成阻止)
 - ・各コロニーで繁殖抑制(ステージ2での個体数増加抑制)
 - ③滋賀県・・・「県内の個体数増加が進んだ段階で個体数を一定レベルまで減少させる」
 - ・既存のコロニーでの計画的駆除(ステージ2での個体数減少)
 - ・現状のコロニー数を増やさない(ステージ1でのコロニー形成阻止)
 - ④愛知県・・・「県内で分布拡散が進んだ段階で、非被害エリアでは許容、被害エリアでは個体数を増やさない」
 - ・被害がほとんどない沿岸部のコロニー(ステージ3)は許容
 - ・内陸部で被害が懸念される地域のコロニーで追い出し(ステージ1でのコロニー形成阻止)
- もちろん、直接的な被害軽減には現場での被害防除が重要で、これらのねぐら・コロニー管理は防除労力を軽減するための対応です。